

平成28年11月25日

平成28年度病害虫発生予察特殊報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：メボウキべと病
2. 作物名：メボウキ（バジル）
3. 病原名：*Peronospora belbahrii* Thines
4. 発生地域：那賀地域
5. 発生確認の経過

平成28年10月上旬に、岩出市のメボウキ（バジル）栽培施設において、葉の褐変、葉枯れ症状が発生し、葉裏に黒～灰褐色霜状の菌叢が認められた。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、*Peronospora belbahrii* Thinesによるメボウキべと病であることが明らかとなった。同様の症状は、同年5月中旬に紀の川市の施設栽培メボウキで、9月上旬に紀の川市の家庭菜園メボウキで確認されている。

本病は、平成26年に千葉県、茨城県および静岡県において国内で初めて発生が確認された。平成27年に神奈川県、大分県で、平成28年に沖縄県、愛知県、栃木県で発生が確認されている。

6. 病徴

葉ははじめ、黄化症状を示し（図1）、裏面に灰白色で霜状の菌叢を生じる。進展すると葉裏全体が黒～灰褐色の菌叢で覆われ（図2）、葉枯れ症状を呈して容易に落葉するようになり（図3、4）、やがて枯死する。

7. 病原菌と伝染

罹病植物体及びその残渣が伝染源となり、分生子により空気伝染する。罹病葉では、無色透明の分生子柄が植物体表面から伸長している様子が観察される（図5）。分生子柄は長さ300 μ m程度で、5～8回分枝し、先端に卵型～楕円形で褐色の分生子を形成する（図5、6）。海外では種子伝染することが報告されている。宿主範囲はシソ科に限られ、メボウキ属、カワミドリ属の一種およびコリウスとされている。シソ属（赤ジソ、青ジソなど）での発病は報告されていない。

8. 防除対策

- 1) 早期発見に努め、症状を確認した場合は発病株や落葉した発病葉を速やかにほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- 2) 多湿条件で発病が助長されるため、密植を避け、通風・排水・採光をよくする。施設栽培では、湿度が高くないよう管理する。

3) 発生地域では登録農薬の予防散布に努める。平成28年11月4日現在、メボウキ(バジル)のべと病に対してランマンフロアブル、レーバスフロアブル、フェスティバル水和剤が適用がある。また、野菜類のべと病に対してZボルドー、ドイツボルドーA、ボルドーが適用がある。未発生地域においても、ほ場をよく観察し、発病株を見つけた場合はほ場外に持ち出した後、速やかに農薬散布を行う。農薬散布にあたっては、使用方法を遵守する。



図1 葉の黄化症状



図2 葉裏の黒～灰褐色霜状の菌叢



図3 発病株



図4 葉枯れ症状



図5 葉裏に形成された分生子柄と分生子



図6 分生子柄と分生子

和歌山県農作物病害虫防除所
担当：大谷・岡本晃久
電話：0736(64)2300